

受領No.1446

モバイル型ビッグデータの活用に基づく 都心部の歩道空間における歩行者の回遊行動の 変遷と特徴に関する研究

代表研究者 蕭 閔偉 大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻 准教授
共同研究者 嘉名 光市 大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻 教授
木村 優輝 大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻 修士課程



Research on the transition and characteristics of pedestrian behavior in the sidewalk space in the city center based on the use of mobile big data

Representative Hongwei HSIAO, Graduate School of Engineering, Osaka City University, Associate Prof.
Collaborator Koichi KANA, Professor, Graduate School of Engineering, Osaka City University
Yuki KIMURA, Master Course, Graduate School of Engineering, Osaka City University

研究概要

新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の流行により、人々の都市空間における消費行動は急激な縮退を余儀なくされ、従来の都市での営みは激変した。一方で、近年、ビッグデータやIoT、AIなど高度な情報技術の都市・建築領域への活用が進んでいる。実空間を対象としたモバイル型ビッグデータを活用して、マクロ的に歩行者・来訪者の行動実態を把握し、更にそれを補完するためにミクロ的に観察調査を行うことによって、今後、COVID-19の流行などのような多様な変化に順応できる都市空間の改善につなげることが期待される。

本研究では大阪市難波地区の代表的な歩道空間「道頓堀」を対象に、ポイント型流動人口データなどのモバイル型ビッグデータを活用し、COVID-19発生前後における歩行者の回遊行動の変遷と特徴を解明する。まず、データ分析により難波地区が所在する大阪市中央区・浪速区のCOVID-19発生前と発生後の歩行者の回遊行動の変遷を網羅的に把握した上で、「道頓堀」周辺エリア内に着目して更なる歩行者の回遊行動の概況を把握する。次に、道頓堀において観察調査を実施し、歩行者の詳細の滞留行動などを把握する。以上の分析から、道頓堀の歩行者回遊行動の変遷と特徴を詳細に考察し、今後の都心部歩行空間の望ましい整備の在り方などについて提言する。